

(2) 下地付け

下地付けには、渋下地と錆下地の2通りが行われます。渋下地は、豆柿の渋に炭粉、松煙（松の木を焼いて作った油煙）、または普通の油煙を混ぜ合わせたものを塗り付け、研ぎを繰り返した後に柿渋を塗ります。渋下地は厚くないので、上塗り後2、3年すると上塗り肌にはヤセが生じ、独特の味がでます。錆下地は、生漆にとの粉を混ぜ合わせ、これを塗り付けます。平らでなめらかなじょうぶな下地です。下記の①～⑧までは、渋下地付けのおよその工程です。

(3) 塗り

漆塗りは、下塗り、中塗り、上塗りの順序で仕上げられます。上塗りには、花塗、木地呂塗が一般的です。花塗は、会津の場合、卵の白味を漆に混ぜています。これによって、漆の流れ、むら、

例 漆塗りの順序（重箱）

- ① 刻苧彫り……木地のつなぎ目などを彫る。
- ② 木がため……生漆を木地にすりこみ、防水性をもたせ、狂を防ぐ。
- ③ 刻苧かき……刻苧（生漆に木くず粉と飯のりをつぶし混ぜたもの）を彫ったところなどにつめこむ。
- ④ 布着せ……布（または紙）をつなぎ目などに漆のりで張りつける。
- ⑤ 地炭付け……目を止めるために、松煙を漆茶碗の中で柿渋でといたものを塗り付ける。
- ⑥ 錆付け……松煙の目を止めるために、うすく錆（との粉を生漆でといたもの）をかける。
- ⑦ きず見……ひびやきずを直す塗りをする。
- ⑧ 研ぎかえし……から渋（柿渋になにも混ぜないもの）を塗り、と石で研ぐ。
- ⑨ 下塗り……下塗り漆を塗る。
- ⑩ 下塗り研ぎ……朴炭、静岡炭で水をつけて研ぐ。
- ⑪ 中塗り……中塗り漆を塗る。
- ⑫ 中塗り研ぎ……朴炭で水をつけて研ぐ。
- ⑬ 上塗り……上塗り漆を塗る。

ちぢみなどが防げ、ポツテリとした塗り肌になります。木地呂塗は、木目を生かした塗りかたです。塗りがたは、丸物と板物では違いますが、塗りの勘どころは、ちぢみのできないように塗ることで、漆がのびないでかたまってしまうことです。塗師の筆さばきは、何十年という経験によって支えられてきており、言葉では表現できないといわれています。

(4) 加飾（蒔絵・沈金）

漆器で加飾といえば、蒔絵はその代名詞です。蒔絵は、漆を塗った漆器にさまざまな絵や模様を描くことです。蒔絵をかく人を蒔絵師といいます。沈金は、漆器の表面に絵などを彫り、そこに金箔をほどこすことです。蒔絵はたくさんの方があり、これらの方法は長い間に完成され、会津に伝統的に伝わっています。



重箱